

〈社会人の窓 8〉

良寛和尚の手紙から読む「災害体験」の価値

柳沼宣裕



私、川遊びや虫取り、魚取りが大好きです。これは、「釣り」ではなく、あくまで「魚取り」です。それに、ゲンゴロウやタガメを捕まえた時などは大喜び。阿武隈川支川の安達太良川で一日中遊んでいました。特に洪水の後は川の脇にあったグラウンドが遊水地になり、生き物博物館に早変わり。虫取りに夢中でした。それらの体験の中で、大小の失敗をしながら川に関する危険回避や「川の顔（様子）」を学んできました。今では年に一回川遊びをするぐらいですが、本当は毎週遊んでいたいぐらいなのです。

先日、役所で土木系の所長を務めていた技術者の先輩と話をする機会がありました。久しぶりにお会いでき、川の事、土木の事、そして、技術の文化について様々な話をすることができました。その時、「今でも防災普及を続けてもらっているのですか。それでしたら地域に残る言い伝えや伝承を押さえてください。それと、良寛和尚を調べてみてください。いい言葉がありますよ」と助言をいただきました。

良寛和尚に関しては、「子どもと遊ぶお坊さん」程度の知識しかありません。覚えていた句は、「霞立つ 長き春日を子供らと 手まりつきつつ 今日もくらしつ」です。早速調べてみました。和尚は江戸時代で災害が多く起きていた時期の人でした。周りでもさまざまな被害や生活の苦しみがありました。残された記録の中に、親しい友人にあてた手紙が残っています。「災難に逢う時節には災難に逢うがよく候 死ぬる時節には死ぬがよく候 是はこれ災難をのがるゝ妙法にて候」という内容です。

この句に対して、さまざまな読み解き方と意見があります。「良寛さんは子どもと遊んでいるのが有名だけど、冷たい」とか、「なんて無礼な人なんだ」と捉えることもできます。しかし、私は逆に捉えました。文の1節目だけですと分かりませんが、3節目の「是はこれ災難をのがるゝ妙法にて候」を読むと、ずいぶん意味が変わってきます。「体験があるからこそ実際の災害を回避することができる」という意味です。もしかしたら、寺田寅彦博士の「災害は忘れた頃にやってくる」とも同じような意味になるのかもしれませんが。

「忘れた頃」ではなく、「忘れるから災害になる」という意味です。過去の出来事を、よそ事、他人事でなく、「自分事」にする仕組み。例えば、自分のまちで起こった出来事を「ちゃんと伝える」。そして、「その伝える仕組みを用意しておく」。これらが大切な事になるのではと考えます。

これから、水害が増える事が予想されています。国土地理院でも地図の中に災害碑の記載を始めています。もうそろそろ、「技術」と「過去の出来事」を連携させて、防災・減災につながる活動が必要な時期になってきたのかもしれませんが。有難いことに大阪湾流域圏には気がついた人、何とかしたいと考えている人が多く集まっています。今後、皆さんの技術と経験、そして思いを伝える活動を展開していきます。よろしく願いいたします。

(乙訓地元学研究室)

イベント報告

川の恵みを活かすフォーラム・アユの食味会

10月27日(日)に、京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリーで、京の川の恵みを活かす会が主催する川の恵みを活かす報告会が行われました。主にアユ、サツキマス、サクラマスについての近況報告や、河口付近のアユの動きをテーマに話し合いました。また、今年は近年に比べアユが少なく、改善策や人と川の繋がりなども話し合いました。

11月2日(土)には、同地で食味会を行いました。天然アユと養殖アユの塩焼きの食べ比べ、ウナギの蒲焼き、ビワマスやニゴイのお造り、鯉こくの他に、今年はサワラの照り焼きなどもありました。多くの魚を食べ自然の繋がりとお恵みを感じることができました。(T・R)



アユの串刺し

2019 クリーンリバー寝屋川作戦・秋

11月17日(日)に寝屋川市でクリーンリバー寝屋川作戦・秋が行われました。私は、春に続いて萱島信和町(京阪萱島駅周辺)において参加しました。寝屋川を街のシンボルになるような綺麗な川にしたいと多くの市民の方が参加しました。雑草やゴミの除去は、作業を振り分けて行いましたが、参加者が皆泥だらけになりながらも必死に作業を行う姿は一種の団結力を感じました。そのほかにも、作業をしながら参加者間でのコミュニケーションが盛んに行われていました。作業後に配られた冷たい麦茶はそれまで作業していた参加者との歓談や達成感もあり、とても美味しくいただきました。(M・K)



京阪萱島駅周辺

流域見聞「亀岡～嵐山」

11月17日(日)に水辺に学ぶネットワークが主催する、流域見聞「亀岡～嵐山」が行われました。午前、マイクロバスで亀岡盆地霞堤や沈下橋を見学しました。霞堤は上流で堤内地に氾濫した水を、開口部からすみやかに川に戻し、被害の拡大を防ぐことができます。霞堤があることによって洪水の被害が緩和できることを学びました。今回の流域見聞では、大阪商業大学の原田禎夫准教授に同行していただき、説明を聞きながら各見学ポイントを回ることができたので、とても勉強になりました。また、午後からは保津川下りをしましたが、気さくな船頭さんのお話とともに、保津川の自然の魅力に触れることができました。

今回、亀岡・嵐山は自然豊かでとても心地の良い地域だと感じました。貴重な体験をさせていただき、とても有意義な1日となりました。(H・U)



霞堤見学のルートマップ

中聖牛の取り組みについて

11月23日(土)24日(日)にやましろ里山の会と京都大学が主催する、木津川の中聖牛設置による護岸活動に参加しました。この活動は、木津川の護岸に中聖牛を置くことで川の流れを制御して、瀬やワンドの創出を促し、川の生態系の多様性を保つまたは広げていくことが目的です。私たちは、この中聖牛と竹蛇籠の製作を建設会社である原小組の協力の下、やましろ里山の会の皆さんとともに作業を行いました。聖牛は木材で型枠と骨組みを作り上げ、その骨組みの中に竹蛇籠を設置し、籠の中には石材を入れていくことで完成となります。職人の方々に丁寧に教えていただき、非常に良い体験をすることができました。(Y・S)



中聖牛の作業風景

流域見聞「木津川中下流～伊賀上野バスツアー」

12月14日(土)に水辺に学ぶネットワーク主催の流域見聞が開催されました。今回の流域見聞は、集合場所のさくらであい館から伊賀上野にかけてバスで様々な場所を訪れました。京都の高山ダムや三重県の上野遊水地、上野公園に行き普段では経験できないような体験をし、なかなか聞けないような話を聞けたと思います。

また、バスでの移動中には澤井先生によるお話を聞けたり、道中に木津川が見やすいようにと木津川の上を走れる道を通ったりと退屈することのないバスツアーでした。次回の見聞会にも参加したいと思える内容でした。(T・R)



上野遊水地の越流堤

今後のイベント詳細

淀川愛好会 総会・新年会 2020

日時： 2020年1月11日(土) 18時～20時
場所： 安兵衛(昨年と同じです) 電話；072-838-0993
所在地： 京阪 寝屋川市駅南口から西に約100メートル
申し込み先： 淀川愛好会事務局 会費： 3000円
申し込み締切：2020年1月7日(火)



第4回 近畿河川フォーラム 兼 第22回 淀川討論会

『台風19号から見てきたもの—治水・防災・減災を考える』

日時 2020年2月29日(土) 第一部13:30～17:00 第二部17:30～19:00

場所 摂南大学寝屋川キャンパス 13号館2階コミュニティールーム

プログラム

- 13:30～ 開会あいさつ 淀川愛好会会長 澤井 健二
- 13:35～ 河川協力団体全国協議会の動き 山道 省三
- 13:50～ 近畿における河川協力団体および最近の治水行政の動向 国土交通省近畿地方整備局
- 14:30～ 講演：台風19号から見てきたもの 京都大学防災研究所 中川 一教授
- 15:10～ 休憩
- 15:20～ 報告：長野市穂保地区における千曲川の破堤災害 信濃毎日新聞社
福島県本宮市における阿武隈川の氾濫災害 乙訓地元学研究室 柳沼宣裕
- 16:00～ 参加者からの話題提供・意見交換
- 17:00～17:15 みんなで歌おう川の歌
- 17:30～19:00 懇親会(同じ会場にて)

主催：近畿水環境交流会・河川フォーラム実行委員会

参加費：無料(ただし懇親会は3000円) 申し込み締め切り：2020年2月22日(土)

申し込み先 淀川愛好会事務局

または、BYネット事務局 担当：丸井(NPO法人ひらかた環境ネットワーク会議内)

〒573-0042 枚方市村野西町5-1 サプリ村野 南館2F

Tel:072-847-2286 Fax:072-807-7873 E-mail:jimukyoku@bynet-r.com

エコシビル部の活動を振り返って

若林 康平

私は入学前、摂南大学のオープンキャンパスにてエコシビル部という部活に興味を持ち、入学してすぐに入部しました。1回生の頃は摂南大学近くを流れる淀川での整備活動や活動後に行われた懇親会にて、先輩や同級生たちとコミュニケーションをとることができ、とても充実した生活を送ることができました。そして1回生の秋から1年間、先輩である副部長の補佐という形でエコシビル部の業務に少しずつ関わっていきました。業務内容は部長の補佐を始め、地元の自治会や企業の方々と共に今後の活動方針や各種イベントの打ち合わせといった会議や運営スタッフとして周りに目を配り、活動する人たちに指示を出すといった役割でした。

私はリーダーシップや人に対して指示を出すといったことが苦手で1回生の頃は先輩についていくことしかできませんでした。そこで、私が副部長としてみんなから認められるような存在になれるように先輩の補佐をする中で、地元の人たちや自治会とのコミュニケーション、部員たちとの交流をより行いました。そうした努力もあってか、副部長になってからは活動の中で自治会の方や部員たちにスムーズに指示を出し、整備作業をより効率化することができました。

こうした経験により私は副部長として補佐の能力だけでなく、リーダーシップも磨くことができたと思います。

(摂南大学 理工学部 都市環境工学科3回生 エコシビル部 前副部長)

台風19号で被災した子どもたちに絵本を送ろう

10月の台風19号で阿武隈川が氾濫し、福島県本宮市の「子ども文庫井筒屋」が床上浸水し、80%以上の本が廃棄されました。自分のペースでゆっくり過ごせる「子ども文庫井筒屋」は障害を抱えた子どもの利用も多く、様々な年齢の人の交流の場でもある、地域のホットとする空間です。本宮市の子ども達に本を通して知識の種とやさしさを届けていただけませんか。

募集する本：○絵本・育児書・小説 お受け取りできない本：×汚れや破れのある本・雑誌

問い合わせ先：柳沼（乙訓地元学研究室）090-1954-9669 1515jeed@gmail.com

編集後記

温暖化の影響か今年も日本は台風に悩まされ、台風による水害が多く発生し、特に台風19号は記録的な豪雨による氾濫災害を広範囲におよぶ各地に起こしました。水辺に学ぶネットワーク主催の流域見聞「亀岡～嵐山」に参加し、霞堤を見た上での私の印象は、霞堤と遊水地は水害から地域を守り、上流の遊水地が下流の地域の人々の身を水害から守る治水が、亀岡の水害の歴史そのものであると感じました。霞堤や遊水地を主体とする地理的特性を利する工夫が防災≒減災としての治水の本質だと感じました。もう一つの問題は環境問題です。

和辻哲郎は、風土と呼ぶのはある土地の気候、気象、地質、地味、地形、景観などの総称であると「風土」の本の第一章の一行に書き表しています。日本の風土の継承は、主体的には内発的に発展をしながら地域の風土を形成してきた性格があります。日本の発展は、再開発という名の下で、日本の風土・歴史・文化を壊して発展しているのが現状です。

亀岡盆地特有の霧が深く心地よい風土と田圃や山並みは、詩的で美しい景観をつくり、この地形と風土を引き継がれてきたことは大変すばらしいことです。引き継がれてきた歴史や風土としての街・亀岡。詩的で美しい景観のJR駅前に、「ドカーン」と京都府立京都スタジアムが出現しました。今まで駅に降り立つ乗客はプラットホームからの心地よい眺め、田圃と山並みの風景は自然公園そのものでありました。スタジアムによって自然の景観や風土が壊され、社会経済が風景を破壊する局面まで都市化が進んでいくだろうと思います。駅前に共生のない再開発が進み、地形が活かされずに「都市のかたち」を形成してしまったことは、亀岡の風土の何かがどこかで「ズレて」しまった感が拭い去れません。

おわりに、イベント報告を編集しながら感じたことは、人・人間が川の恵みや自然に癒されながら、日常的な存在が感動を拡充する場所としての印象を受けました。編集会議でイベント報告を追加することをお願いし、華やいた誌面にさせていただいたことを学生諸君に感謝します。

編集長 岡崎善久（岡崎善久建築設計事務所）